

第6学年 道徳科学習指導案

研究テーマ

児童が多様な価値観に触れ、自分の生活や内面を見つめ直すことができる授業

授業を通して育成したい子どもの姿

「善悪の判断、自律、自由と責任」について、友達と考えを交流して考えを深め、自分の経験を想起して自己を振り返ることができる児童

1 主題名 責任と規律ある行動（A(1)善悪の判断、自律、自由と責任）

2 教材名 会話のゆくえ（学研「新・みんなの道徳 6年」）

3 主題設定について

本教材は、内容項目A(1)善悪の判断、自律、自由と責任に関する内容項目である。高学年においては、「自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること」が目標とされている。物事の善悪についての確に判断し、自ら正しいと信じるころに従って主体的に行動することに関する考えを深める価値項目である。そのためには、自由な考えや行動のもつ意味やその大切さを実感させるとともに、自分の意志で考え判断し行動したり、その後の影響について話し合ったりすることを通して考えさせたい。

本学級の児童においては、担任から見るとほとんどの児童が善悪の判断ができている。また、できなかった場合に担任が指導した場面では素直に聞き入れ、次からは直していこうと自分の行動に生かせる児童が多い。友だちに対して注意や助言が気軽にできるような友人関係が形成されている。一方で、教材で扱う情報モラルに関しては、チャット等に関わっている児童も多く、その使い方はうかがい知ることができない。メールを使い情報モラルの指導をした活動を生かし、この情報モラルの教材を通して、この内容項目についての考えを深めさせたい。

本教材は、合唱コンクールの優勝をめざしてがんばっている6年1組のSNSグループにおいて、あゆみが「みんなで優勝をめざしてがんばろう」という意図で始めたはずが、途中から個人への攻撃に変わってしまい、あゆみの気持ちがモヤモヤするという話になっている。なぜモヤモヤするのかを考えさせることで、攻撃されている個人の気持ちや自分に向けられた攻撃、学級の雰囲気、正しいことが言えなかった自分など、多様な考えを児童から引き出して考えを深めさせたい。その後の振り返りの活動においては、あゆみのようにモヤモヤした経験や、正しく行動できたことでスッキリした経験を想起させ、この内容項目における自己を見つめる時間を確保する。

4 本時の研究の視点

【視点1】多様な価値観を表出させ、様々な考えに思いめぐらせる発問の設定

- 葛藤場面における主人公の気持ちを問うことで、その葛藤の要因となる多様な価値観を引き出す

【視点2】道徳的価値に関するエピソードや葛藤経験などを表現させる場の設定

- 主人公のようにできた経験、できなかった経験を想起させ、自分の思いや考えを表出する時間を確保する。

5 本時で働かせる見方・考え方

登場人物の行動から自己とのかかわりで多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考える。

6 本時のねらい

登場人物の葛藤を自分事として考えることを通して、自らの生活や内面を振り返り、自ら主体的に善悪の判断をしようとする心情を育てる。

7 学習過程

学習内容・活動（予想される子どもの反応）	時間	◇教師の支援 ※評価
1 本時で扱う価値に関心をもつ。 ・「正しいと思うことがいつでもできるか」自分について考える。	6	◇ 4段階の項目を設定して児童に選択させ、その理由も記述させる。
2 「会話のゆくえ」を読んで話し合う。 (1) 教師の範読を聞く。	2 6 (7)	◇ 範読を前半と後半に分ける。 ◇ 前半はみんなで優勝するために前向きに話していることを児童の言葉でつなぎながら確認する。
(2) 「なぜ気持ちがすっきりしないのか」を話し合う。 ・自分も責められ始めているから。 ・な○こさんが責められているから。 ・クラスの雰囲気が悪くなっているから。 ・仲間外れになっているから ・正しいことができなかったから	(16)	◇ 葛藤場面における主人公の気持ちを問うことで、その葛藤の要因となる多様な価値観を引き出す。(視点1) ◇ 主人公の葛藤を感じ取らせ、多様な考えを引き出し、つなげていく。 ※ 話し合いを通して、さまざまな考えに思いをめぐらせている。(発言・ワークシート)
(3) どうすればモヤモヤしなかったかを話し合う。	(3)	◇ 児童の発表をつなぎ、教師は児童の考えに共感し、時に問いかけながら、「自己をみつめる」段階へとつなげていく。
3 自己をみつめる。 (1) <u>あゆみのように</u> 「モヤモヤした経験」「正しいと思うことができてスッキリした経験」を振り返る。	1 3 (10)	◇ 経験から自己をみつめる時間を確保する。(視点2) ◇ 経験を書いた児童の中から、児童の気持ちに配慮しながら意図的指名を行う。それに対する共感等、児童の考えを引き出し、自分の考えを深めさせる。
(2) 教師の説話を聞く。	(3)	※ 本時で扱う内容項目について自分事としてとらえている。(ワークシート) ◇ モヤモヤした経験、すっきりした経験の2つの経験談を準備し、中心発問での話し合いを考慮して説話の方向性を判断し、児童がこの価値の内容項目についてより考えを深められるようにする。